

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しています。

URL <https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

Vol.68 2023.03



さがみはら
SDGs
パートナー
2019年3月24日 発刊

相模原市まち・みどり公社は、「さがみはら SDGs パートナー」登録団体です。

2～3ページ▶

生物多様性を守ろう！～「昆明・モントリオール生物多様性枠組」地域に求められる行動目標

麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 特任助教 新田 梢 氏

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて 神秘的なテンナンショウ属の花

自然観察指導員 亀崎 誠 氏

モミジイチゴ（バラ科、落葉低木）

和名は、掌状に五裂する葉がモミジを思わせることから。3月頃から下向きに花をつけ、甘いオレンジ色の実をつけます。相模原木もれびの森では、いち早く観察できる春の花です。

（写真提供： ここももの会）

SDGsに貢献する「みどり」のあり方④

「土の中への想像力」

国連生物多様性の10年
市民ネットワーク代表

坂田 昌子 氏

わたしたちは地上にある植物だけを見て、「気持ちよい庭」と感じます。しかし、地上の植物たちにとって最も大事なものは、土の中の環境です。土中環境とは、土壌成分のことではありません。陸上の植物の80％は、菌根菌と言われる様々なキノコたちと共生関係にあります。わたしたちはキノコが地上に出てきた時だけしか目にすることができませんが、それは胞子を飛ばすために出てきた「子実体」と呼ばれるもので、いわばキノコの子です。実はキノコたちは、菌糸という状態でいつも土の中に存在しています。

キノコは、枯れ木や倒木を土に還してゆく分解の役目を担っている腐朽菌と、木と栄養の交換をしている菌根菌に大きく分けることができます。菌根菌は草木の根の先端に菌糸をからみつけたり、根の中から入りこんで細胞とつながりながら、草木の根が届かない広い範囲にはびこり、植物の成長に必要な窒素、リン、カリウムを集め草木に与えています。さらに病原菌の撃退も行っています。そのお返しに草木たちは、糖分を菌根菌に与えているのです。さらに菌糸は土を抱え込んで団子状の状態となり、土中に空間を作り出すことによって水をゆっくりしみ込ませます。

菌糸が活発に活動することと同時に、草木にとって大切なのは、土中の水の動きです。ゆっくり浸み込み、ゆっくり乾いてゆくの草木にとってはベストな状態です。雨が浸み込んでいけない場合、水溜まりができるもの乾くとカチカチになります。そんな場所には草も生えず、雨水は表土を簡単に流してしまい悪循環に陥ります。特にコンクリートは排水能力が全くないため、土中の水の動きはコンクリート脇で止まり滞水してしまいます。菌糸も進むことができません。庭と道路やブロック塀の境目に、溝を掘り、小枝や落葉を詰めてあげるだけで庭の状況は大きく改善します。庭の土の中は、人間には見えなくとも、草木と菌たちが織りなす世界があるのです。地表だけにとらわれず、土中の改善に取り組むことは、自分の庭の問題改善にとどまらず、水の涵養、さらに気候変動への素晴らしい対処になります。



菌根菌のニオイコベニタケ



木を取り囲むように菌根菌が作り出す菌輪

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

生物多様性を守ろう！～「昆明・モンリオール生物多様性枠組」 地域に求められる行動目標

麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 特任助教 理学博士 新田 梢氏

2022年12月にカナダ・モンリオールで開催された「生物多様性条約 第15回締約国会議 (COP15)」では、生物多様性に関する2021年以降の新たな世界目標として「昆明・モンリオール生物多様性枠組」が採択されました。この枠組は、2010年に採択された愛知目標を引き継ぎ、2050年までに「自然と共生する世界」を実現するために、まず、2030年までに生物多様性の損失を止めるための目標が設定されています。

今号では、生物多様性に関する国際的な動向と共に、この枠組の主旨についての理解を進め、私たちの地域レベルで求められている行動について考えてみましょう。

※環境省発表の暫定訳を参照しています。



生物多様性条約とは

野生生物の種の絶滅や生態系の破壊等を背景に、希少種の取引規制や特定の生物種や生息地の保護を目的とする既存の国際条約を補完して、生物多様性とその構成要素の持続可能な利用や公正・衡平な配分を主な目的として、1993年に発効しました。2010年には、その第10回締約国会議 (COP10) が愛知県で開催されました。2020年までに生物多様性の損失を食い止めるためにとるべき行動として合意を得た世界目標は「愛知目標」と呼ばれています。

—「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の一部を見てみましょう—

生物多様性の恩恵と損失の危機

冒頭の章には、まず、こうした取り組みがなぜ必要とされているかを示す「背景」として、生物多様性や生態系の科学的な評価等を行う政府間組織の報告書から次のように引用しています。

“評価された動物と植物の種群のうち平均約 25%が絶滅のおそれがあるとされ、～略～ 取り組みが講じられない限り、約100万種、かつ、その多くが数十年の間に絶滅に直面することが示唆されている。～略～ 現時点ですでに過去1,000万年間の平均よりも数十倍から数百倍も早まっている地球規模での種の絶滅速度がさらに加速することになる。”

生物多様性と人々の健康のつながり —「ワンヘルス (One Health)」

枠組を実施する中で、「多様性」と「健康」の相互のつながりを認識する「ワンヘルスアプローチ」が挙げられています。「ワンヘルス」とは、生態系の健康 (地球環境や生物多様性の健康)、野生動物や家畜の健康などの健全性が保たれてこそ、人の健康を守ることができるという考え方です。

“枠組は、生物多様性に関係する医薬品、ワクチン～略～ 技術への衡平なアクセスの必要性を認識し、健康に対するリスクを減らすために生物多様性への影響を低減して環境の劣化を軽減するとともに～略～ 科学に基づき、多様なセクター、領域及びコミュニティーを協働のために動員し、人の健康、動物の健康、植物の健全性、生態系の健全性を持続可能な形で調和・最適化するワンヘルスアプローチを考慮して実施される。”



©ここももの会



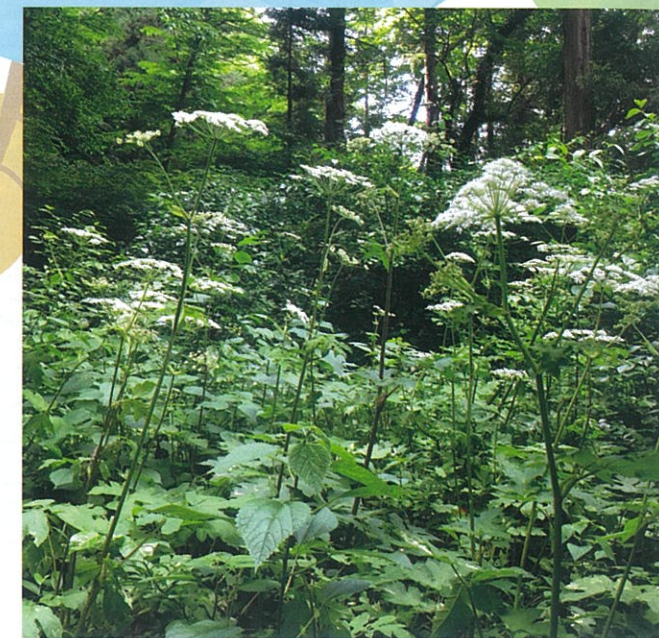
©相模原のカザグルマを守る会

2050年ビジョン-「自然と共生する世界」を目指して 2030年ミッション-生物多様性の回復に向けた アクションを起こす社会へ

枠組には、2030年までの10年間で達成したい23のターゲットが、具体的な数値目標と共に定められています。生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全・再生するという目標は、「30 by 30」(サーティバイサーティ)と呼ばれます。「30 by 30」では、保護地域以外であっても、同等の効果のある地域の生物多様性を保全するため、企業、自治体、団体等が連携して、企業有林や里山、緑地など、地域の自然を保全する計画が求められており、日本でも既に候補地の選定が始まっています。

～2030年ミッションの一部を紹介します。

- ターゲット2：2030年までに、損なわれた生態系の少なくとも30%を再生
- ターゲット3：2030年までに、陸・海域の少なくとも30%以上を保全
- ターゲット6：2030年までに、侵略的外来種の導入・定着率を少なくとも50%削減
- ターゲット12：生物多様性に配慮した都市計画の確保



八瀬川の岸辺に繁殖するキショウブ (生態系被害防止外来種)



例：東京都『生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引』

地域の遺伝的多様性を守る

ターゲット6では、外来種の課題、特に、侵略的外来種の削減目標を挙げています。

前号 (さがみはらグリーン67号) で取り上げた国内の「生態系被害防止外来種リスト」では、「国内由来の外来種」も対象とされていることを紹介しました。つまり、「国内の地域間の移入」も、地域の生物多様性保全や遺伝子多様性の視点から、より一層対策が必要となっているのです。近年、地域の生物多様性に配慮した公園や緑化を目指した基準やガイドラインを制定する自治体も出てきました。

地域の生物多様性の保全のために…

今回は、「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の一部を断片的に紹介しましたが、興味のある方は、ぜひ環境省はじめ関連各省や生物多様性条約の資料をご覧ください。今後この枠組を元に、様々な制度・動きがみられることでしょう。国際・国・地域レベルでのあらゆる団体の行動と協働が重要となってきています。



環境省の
関連ページ

麻布大学による調査活動も進められています

相模原市をはじめとする関東周辺の都市部や住宅地では、河畔や谷戸・丘陵地に開発を逃れて残されている緑地等が点在しており、これら都市近郊緑地に残された在来植物や外来植物の調査活動を行っています。生物多様性保全のためには、昔からの自然が残されている土地が土壌の生態系を含めて健全に維持されていることが重要であると、調査を通して学生も実感しています。





神秘的なテンナンショウ属の花

文・写真 「さがみはら緑の風」会員、自然観察指導員 亀崎 誠氏

サトイモ科のテンナンショウ属の仲間は日本に30種類ほどあります。その中で、ウラシマソウとミミガタテンナンショウは、3月中旬になると相模原市内の林などで容易に見ることができます。一見、怪奇で不気味かつ神秘的な「花」のように見えるものは「仏炎苞」と呼ばれ、この中に収納されている棒状の穂が本来の「花」です。この構造は、ミズバショウを思い浮かべると分かりやすいと思います。

仏炎苞をめくってみると写真のように雄花または雌花が見られますが、株の成長初期には雄花を、さらに成長して株が大きくなると雌花を咲かせることから性転換する植物とされています。株が大きくなってから雌花を付けるのは、実を成らせる負担がそれだけ大きいためと考えられます。

また、花は虫に花粉を運んでもらう虫媒花です。独特の匂いを放つことでキノコバエなどの昆虫を仏炎苞内に誘引します。雄株は仏炎苞の基部に昆虫の出口としての「穴」が開いていますが、雌株には出口が無く、閉じ込められた昆虫が内部を飛び回ることによって多くの花が受粉できるような仕組みになっているのです。

仏炎苞から伸びる突起は「付属体」で、ウラシマソウの場合は釣り竿のように見えることが名前の由来です。この「釣り竿」はキノコバエを誘引する役目を果たしていることが最近の研究から明らかになってきています。

皆さんもこの神秘的な植物を観察してみてください。



ウラシマソウの
仏炎苞と付属体



ウラシマソウの雌花(左)と雄花(右)



脱出口(ミミガタテンナンショウ)



ミミガタテンナンショウ



緑の募金へのご協力ありがとうございました

募金総額 1,635,637円

※相模原市域集計額 [2022年2月1日～2023年1月末]

募金協力団体一覧(敬称略/順不同):

(株)アイスコ、(株)旭商会、(学)麻布獣医学園(麻布大学)、アマノ(株)相模原事業所、新磯野2丁目市民緑地を守る会、(株)ウィッツコミュニティ、大沢川の自然を知る会、(株)オハラ、神奈川中央警備保障(株)、上岩生産森林組合、上溝四ツ谷根っ子の会、(株)河本総合防災、(株)ギオン、相模トリアム(株)、相模原グリーンロータリークラブ、相模原市農業協同組合、相模原市農協中央支店、相模原商工会議所、相模原造園協同組合、さがみはら津久井森林組合、(株)相模原木材センター、さがみ緑風園、(株)サット、三太の里共和国、(株)三紅、(株)三凌商事、城山商工会、(株)スポーツテクノ和広、西武信用金庫橋本支店、(株)清和サービス、タイドービジネスサービス(株)、タイヨー印刷(株)、(株)タウンニュース社相模原支社、東海体育指導(株)、東京キリンビバレッジサービス(株)、東テク(株)、トヨタモビリティ神奈川相模原店、トヨタモビリティパーツ(株)神奈川支社、(株)ニシコワポレーション、日本コンピュータ・ダイナミクス(株)、(株)野崎工業所、橋本駅北口第一再開発ビル(株)、(株)パティネレジャー、平塚信用金庫相模原中央支店、(株)フクシ・エンタープライズ、藤野やまなみ温泉、牧野元気創生会、(株)明治スポーツプラザ、相模警備保障(株)、麻溝台自治会、大野北地区自治会連合会、大野中地区自治会連合会、相模台地区自治会連合会、山王自治会、嶽之内自治会、津久井地区自治会連合会、中淵自治会、橋本地区自治会連合会、藤野地区自治会連合会、星が丘地区自治会連合会、(一社)相模湖観光協会、相模原北警察署、相模原県税事務所、(公財)相模原市勤労者福祉サービスセンター、(公財)相模原市産業振興財団、(福)相模原市社会福祉協議会、相模原市水みどり環境課、津久井交通安全協会、横浜地方方法務局相模原支局、青葉小、麻溝小、大沼小、大野北小、くぬぎ台小、鹿島台小、湘南小、田名北小、千木良小、藤野北小、藤野南小、淵野辺小、星が丘小、緑台小、若松小、内郷中、内出中、鶴野森中、大沢中、北相中、共和中、新町中、相陽中、東林中、鳥屋中、中沢中、中野中、神奈川総合産業高、相模田名高、相模原弥栄高、相模原高

お寄せいただいた緑の募金は、市内の緑化の推進に活用させていただくほか、国・県の緑化事業や、災害被災地域への緑化等の復興支援にも活用されます。

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告

KIRIN

広告

相模原
造園協同組合

http://www.sagamihara-zouen.jp/
TEL: 042-773-8977 FAX: 042-773-5051

お庭のお手入れや
緑化工事など、
お気軽にご相談ください。

2023年3月1日発行 / 編集・発行者・発行所: 〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
TEL: 042-751-6623 FAX: 042-751-2345

本紙に対するご感想、ご意見をお寄せください。ホームページにもぜひアクセスを… <https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>